

積 替 え 施 設 （コンクリート土間）

概 略 図

- ・コンクリート土間： t=150～200mm 土間面積 1,560m²
- ・排水側溝： W100*H（50～100） 土間周囲 L 200m
- ・集水、沈砂ピット： 2箇所設置 (3.0m*4.0m*1.5m)*2基 = 36.0m³
- ・土堰堤：鉄板 H=900 L=50m(既存) 新設堰堤 H=900 L=36m
- ・防塵ネット： H杭基礎 H=5.0m L 100m
鋼製棹3段 H=5.0m L 50m
(いずれも下部3.0mは万能鋼板、上部2.0mは防塵ネット)

- ・土間コンクリート構造とし、排水側溝、沈砂ピットを設置する
ピットは1回当り降雨量23mm(3m×4m×1.5m×2ヶ所÷1,560m²=23mm)まで湛水対応
- ・既存の鉄板堰堤及び新設堰堤により管理土の海側への流出を防止する
- ・周辺には防塵ネット(H=5m 万能鋼板3m、防塵ネット2m)を設けて、管理土の飛散を防止する
- ・散水装置(エンジン式ハイウォッシャー等)により適宜散水を行い、乾燥を防止し飛散防止を図る
- ・車両の退出時には泥落とし装置を設け、タイヤに付着した管理土を除去する(泥落とし装置)

- ・ガット船にて直接積込する

- ・管理土積込み
 - ・ JFE建材(株)旧習志野工場内
 - ・ ダンプに積込み、搬出時にダンプ1台毎に重量を計量し、管理土管理表を交付する
- ・運搬途上
 - ・ 搬入時の運搬ダンプの荷台(あおり付き)はシートで覆い管理土の飛散を防ぐ
 - ・ JFE(株)東日本製鉄所へのダンプの出入り口は別々にする等、国道16号の交通渋滞を避ける
 - ・ 荷降ろし後は、泥落とし装置によりタイヤに付着した管理土等を除去する
(除去後の残存管理土はガット船に積込み搬出する)
- ・管理土積替え及び飛散防止
 - ・ 岸壁作業責任者は管理土管理表を確認し、荷降ろし場所を指示する
 - ・ コンクリート土間でホイルローダにより集積する
 - ・ ガット船船長は管理土管理表を確認し、積み込む
 - ・ 仮置き管理土には適宜散水し、乾燥防止及び飛散防止を図る
(散水に使用する水が不足した場合はタンクローリーで補給する)
 - ・ 管理土の流出の恐れがある場合(1回当り20mm以上の降雨)はシートで管理土を覆う
 - ・ 作業時間以外は管理土をシート等で覆い飛散防止を図る
 - ・ 防塵ネットは定期的に点検し、不具合箇所はそのつど整備する
- ・排水処理
 - ・ コンクリート土間で管理土よりの浸出水は排水側溝より沈砂ピットに集水する
また、少々の降雨により管理土に触れた排水も同様に沈砂ピットに集水する
 - ・ 集水した排水は適宜管理土に散水し、乾燥防止及び飛散防止を図る
(循環式とし外部には出さないが、余剰水が発生した場合はガット船に積込み搬出する)
また、沈砂ピットに堆積した管理土もガット船に積込み搬出する
- ・安全対策
連絡体制その他
 - ・ 積替え場内では搬入車両の運行ルート(入路、退出路)を指定する
 - ・ ホイルローダの運転手は周囲に注意を払うとともに移動半径内は立ち入り禁止とする
 - ・ ガット船の積込み半径内は、全ての作業員の立ち入り禁止とする。
 - ・ 事故等の緊急時、岸壁作業責任者はすみやかに連絡体制に基づき連絡する
- ・強風時
(10分間の平均風速10m/s超)
 - ・ 岸壁管理者は風速計により風速を観測、記録し、10分間の平均風速が、10m/sを超える場合は、岸壁上でのガット船積込み作業は一時中止する。また、運搬車両も一時待機する。
 - ・ 強風が連続する場合は、搬入についても一時中断し積込み作業も中断する。
また、残置された管理土には事前に入念な散水等を行い、湿潤状態を保ちシート等で管理土を養生し飛散防止を図る
- ・大雨時
 - ・ 大雨注意報発令時は管理土の搬入、積込み等全ての作業は行わない
(大雨注意報発令時) 残置された管理土を含む土間全舵、JB、請求を防止を要する資材、請求資材

漏洩・飛散 拡散防止 の諸施設